振り返りシート・学生書き込み用（2025.8.1版）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **実習施設名** | **（　　　か所目・　　日間）** | | **施設種別** |  | **作成日** | **20　　年　月　　日** | |
| **実習生　名前（実習期間）** | |  | | | | | |
| **担当教員名（備考：交代など）** | |  | | | | | |
|  | | | | | | |
| **振り返りの成果（1か所目の場合、２か所目の実習課題の冒頭に記述する内容）** | | | | | | |
|  | | | | | | |

* 本実習教育内容・実習評価ガイドラインにおいては、科目「ソーシャルワーク実習」の通知に規定されている「教育に含むべき事項①～⑩」に対応した「教育目標」を設定している。教育目標は、「達成目標」と「行動目標」で構成される。
* 「達成目標」は、実習生が実習を終えた時点において「どのような行動ができるようになっているか」を示したものであり、実習の結果としての状態を表している。達成目標の習得の深度や段階は、実習施設の種別や法人の理念等に基づき、実習前に実習担当教員と実習指導者との間で調整して設定する。
* 「行動目標」は、達成目標を細分化し，「説明できる、図示できる、実施できる、作成できる」など，より具体的かつ観察可能な行動を示している。
* ソーシャルワーク実習では、実習施設の種別を問わず、ミクロ・メゾ・マクロの全てのレベルにおいて支援（介入）の対象が存在しているため、実際に活用する際は、それぞれのレベルで想定

される対象を念頭に置いた行動目標を設定する。本ガイドラインでは、「ミクロ」「メゾ」「マクロ」を以下の通り定義する。

ミクロレベル：直接援助の対象である個人と家族への介入。

メゾレベル：家族ほど親密ではないが、グループや学校・職場、近隣など有意義な対人関係があるレベルで、クライエントに直接、影響するシステムの変容をめざす介入。

マクロレベル：対面での直接サービス提供ではなく、社会問題に対応するための社会計画や地域組織化。

* なお、教育に含むべき事項①～⑩の項目配列の順序は実習過程の順序を示したものではないため、実習施設・機関および実習生の状況に合わせ、各項目を関連付けて目標を達成するための実習計画を立案する。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 42 | |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 厚労省通知  「ソーシャルワーク実習」 | | ソーシャルワーク実習の教育目標・達成状況 | | | ねらい | 教育に含むべき事項 | 達成目標 | 達成状況（細分化された達成目標、すなわち行動目標ごとに達成できたことを振り返り、記述する。日誌から該当箇所をコピーしてもよい） | | ①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。  ②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。  ③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 | ①**利用者や**その関係  者（**家族**・親族、友人等）、**施設・事業者・機関**・団体、住民やボランティア等**との基本的なコミュニケーション**や円滑な人間関係**の形成** |  |  | | ②**利用者や**その関係  者（**家族**・親族、友人等） **との援助関係の形成** |  |  | | ③利用者や地域の状 況を理解し、その**生 活上の課題（ニーズ）の把握**、支援計画の作成と実施及び評価 |  |  | |
| 43 | |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | ④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。    ⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 |  |  |  | |  |  | |  |  | | ④**利用者**やその関係者（家族・親族、友人等）へ**の権利擁護活動**とその評価 |  |  | | ⑤**多職種連携及びチームアプローチ**の実践的理解 |  |  | |  |  | |  |  | |  |  | | ⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ |  |  | |  |  | |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 44 | |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | |  | ⑦**地域における分野横断的・業種横断的な関係形成**と**社会資源の活用・調整**・開発に関する理解 |  |  | | ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの**管理運営の実際**（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。） |  |  | |  |  | | ⑨**社会福祉士としての職業倫理**と組織の一員としての役割と責任の理解 |  |  | |  |  | | ⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解  ・**アウトリーチ**  **・ネットワーキング**  **・コーディネーション**  **・ネゴシエーション**  **・ファシリテーション**  **・プレゼンテーション**  **・ソーシャルアクション** |  |  | |